

【議事】定32

(2) マイクロラブサット1号機の成果について

JAXA の渡辺執行役が切り出しの挨拶を行い、JAXA の橋本センター長が資料 32-2(マイクロラブサット 1)を説明した後、少々質疑応答があった。

青江：小型衛星をやることは良いと思うが、何でこの場合小型スピン衛星なのかが解らない。マップ¹があってその中の位置付けが見えているなら良いが、小型スピン衛星の技術開発をやる、何でそれが課題なのが見えてこない。

JAXA 渡辺：この報告はマイクロラブサットの成果を纏めたもので、今ご指摘の点は書いてこなかった。JAXA では既にマップが書かれており、宇宙開発委員会で審議いただく手はずになっている。その中では、小型衛星で得られた成果を大型衛星に採用していくシナリオが書かれている。

松尾：マイクロラブサットの目的の一つに「JAXA 若手職員の育成」が上げられている。実際のところどうであったのか。

JAXA 橋本：チームに居た若手職員は引っ張りだこで、育てた職員は全て取られてしまった。

青江：本当にそんなに効果があるのか。疑わしい²。

¹ 古いマップは入手できる筈。ご自分で勉強されれば良い。

² エンジニアは経験を通じて育つ。ここを疑われたらかなわない。

JAXA 橋本：大型衛星の開発には時間が掛かり、開発の1サイクル全てを体験するのに大変な年数が必要である。小型衛星は短時間に経験でき、しかも開発の着手から衛星の運用まで全てのプロセスを体験できる。

森尾：衛星の開発に携わる方から、半導体は難しいということを知りたい。小型衛星を利用して、価格的に実証できる実験はできないのか。

JAXA 橋本：SPS-1 も半導体の実験を行う。小型衛星のシリーズ化を計画しており、「安くて早く」を実現したと考えている。

井口：育成を第一優先とするのが良いと思う。半導体であるが、わが国では宇宙実証が不可欠となっており、常に古い物を使っているということになる。これを解決しなければならない。また、日本の衛星にとって重要なのが耐久性である。機能停止しても衛星は軌道に残っているのであるから、耐久試験を続けているようなもの。データが取れるように考慮できないものなのか。³

JAXA 渡辺：寿命6ヶ月で設計して3年9ヶ月の運用ができた。これを更に延ばすとすると、... (以下省略) ...

³ 超ウルトラエクストラサクセスを要求するのか。センサーなどの計測系も耐久試験を受けているようなもの。地上のものなら計測系だけ新品に取り替えて試験を継続できるが、衛星にそのような要求はできなからう。渡辺執行役は真面目に答えていたが、普通の人なら「そんなご無体な」と反応するに違いない。